

堆肥の利用拡大・流通促進・耕畜連携を進めるには

利用拡大・流通促進・耕畜連携の意味するところは「家畜ふん堆肥をより多く使ってもらう」ことであり、「使ってもらう」といっても無料で差し上げるわけではないから、「家畜ふん堆肥をより多く買ってもらう」ということになります。

「買ってもらう」のであれば堆肥は【商品】であり、「買ってもらう」は【販売】と同意義語ですから、利用拡大・流通促進・耕畜連携の現場における具体的な意味は堆肥という【商品の販売】なのです。

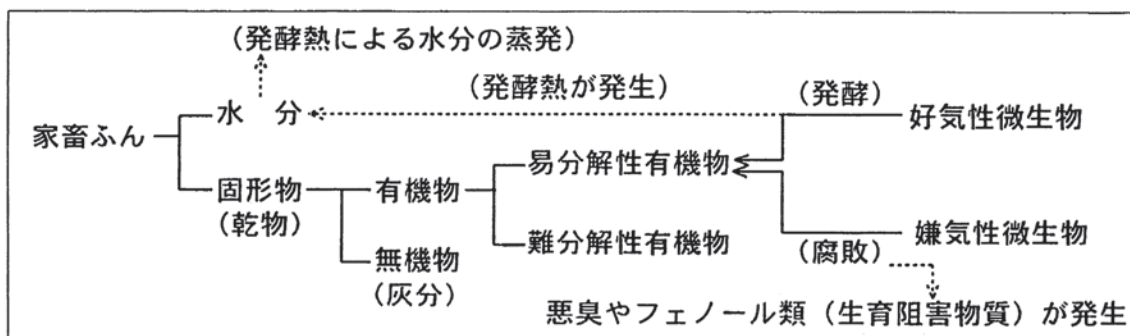
商品（堆肥）販売のポイント

【商品】を【販売】するには、客（購入者）のニーズに合わせる競争とPRや営業活動が不可欠になります。

- | | |
|----------------|---|
| 1. 品質のニーズ・競争 | ①高品質（良質堆肥、完熟堆肥等の生産）
②安全性（病原菌・寄生虫・雑草種子等の死滅）
③安定性（可能な限りの一定品質・性状）
④取り扱い性（ペレット化、粒状化、低水分、荷姿等） |
| 2. 価格のニーズ・競争 | ①低価格（低コスト生産、適正な処理費用の負担） |
| 3. サービスのニーズ・競争 | ①親切で気持ち良い対応
②配達や農地散布サービス（有料でもよい）
③商品の説明（品質、施用効果、上手な使い方） |
| 4. PR・営業活動 | ①試供品の配布、置き薬方式等
②施用効果の実証・展示・宣伝
③耕種農家を対象とした講習会の開催
④農協の各作物部会、園芸店、量販店、一般家庭への営業 |

「客（購入者）のニーズに合わせる競争とPR・営業活動」を行うには、堆肥という商品を生産・販売している畜産側に「正確で豊富な商品知識」が不可欠になります。

家畜ふんの堆肥化発酵処理のしくみ



1. 家畜ふんの堆肥化発酵と完熟堆肥

堆肥化とは家畜ふんを微生物が分解することですが、より正確に言うと家畜ふんに含まれる易分解性有機物を好気性微生物が酸化分解することです。

好気性微生物による酸化分解に伴い発酵熱が発生し、この発酵熱により病原菌や雑草の種子が死滅するとともに、ふんの水分が蒸発します。

次ページのグラフから家畜ふんに含まれる有機物の約 50%弱が堆肥化により分解することが分かりますが、分解した有機物が易分解性有機物で、残った有機物が難分解性有機物ということになります。

このように堆肥化で分解されなかった難分解性有機物と灰分と残り水分の混合物が完熟堆肥です。つまり、易分解性有機物の分解が終わった時点で完熟堆肥と呼ぶことができるのです。

一般に完熟堆肥というと、字句の意味するとおり有機物の分解が完全に終わった堆肥と誤解されることが多いのですが、そのような堆肥では無機物だけの化学肥料と同じになり、有機農業を行うことができなくなってしまいます。

堆肥の価値は含まれている有機物にあるのですから、難分解性有機物は残しておかなければなりません。

2. 完熟堆肥と良質堆肥

嫌気性微生物も易分解性有機物を分解するので、長期間堆積すれば易分解性有機物の分解が終わった堆肥になりますが、嫌気性微生物による分解では発酵熱の代わりに各種の悪臭ガスやフェノール類（作物の生育阻害物質）などが発生しますし、熱の発生がないため水分の蒸発も期待できず、病原菌や雑草種子の心配も残ってしまいます。

これでは易分解性有機物の分解が終わったとしても良質堆肥と呼ぶことはできません。熱の発生が伴う好気性発酵により水分が減少した汚物感のない取り扱いやすい性状で、しかも安心・安全な堆肥を良質堆肥と呼びます。